

大豆栽培におけるイヌホオズキ類の発生と生態

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

普通畑作物－大豆－雑草発生、雑草防除

2 担当者

佐々木園子・江上宗信

3 要旨

浜通り北部の大豆栽培圃場でのイヌホオズキ類の発生が増加してきている。イヌホオズキ類の最低発芽温度は20℃前後で、ほ場では10月でも発芽した。

(1)イヌホオズキ類はナス科の一年草で、帰化によるものを含めて数種類が知られている。近年、日本各地の大豆栽培で発生が報告されており、多発生による減収や汚損粒の原因となるため、問題となっている。

(2)浜通り北部の大豆栽培ほ場で雑草の発生状況を調査した結果、南相馬市ではイヌホオズキ類が全面に繁茂しているほ場が見られた。他にクサネム、ツユクサなどの発生も見られた。新地町でもイヌホオズキ類は一部ほ場で発生していた。他にマメ科のヤブツルアズキの発生が目立った。同定の結果、現地で発生しているのはイヌホオズキ(*Solanum nigrum*)およびアメリカイヌホオズキ(*Solanum ptycanthum*)であると考えられた(データ省略)。

(3)イヌホオズキ類の最低発芽温度は20℃前後で、暗条件でも発芽した(図1)。

(4)覆土深が浅いほど出芽率は高く、3cm深までで出芽がみられた(図2)。

(5)ほ場では10月でも発芽した。大豆の標播栽培で欠株がない場所では、6月に発生したもの以外は開花、結実には至らなかったが、大豆が欠株している場所では、8月に発生したものでも開花、結実した(表1)。

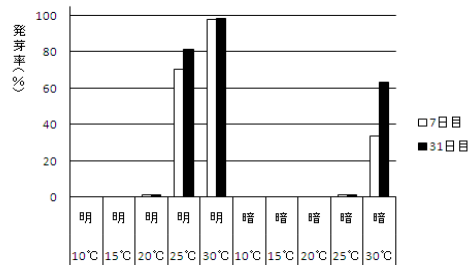


図1 イヌホオズキ類の発芽に対する光と温度の影響

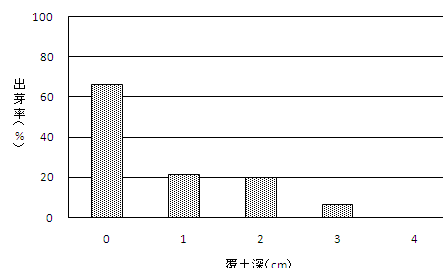


図2 イヌホオズキ類の出芽に対する覆土深の影響

表1 イヌホオズキ類の播種時期別の出芽、開花、結実の有無

場所	播種時期	出芽	開花	結実
畦間	6月	○	○	○
	7月	○	×	×
	8月	○	×	×
	9月	○	×	×
	10月	○	×	×
畦間(大豆欠株部分)	8月	○	○	○
	9月	○	×	×
	10月	○	×	×

注)6月9日にタチナガハを播種したほ場での結果。6月から10月まで月1回、畦間の土壌表面にイヌホオズキ種子を播種して調査した。8月からは大豆欠株部分にも播種して調査した。

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成23年度

(2) 研究課題名 浜通りにおける大豆、麦類の高品質・安定生産に向けた技術の確立 (1)大豆栽培技術の確立

(3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

(1) 平成23年度センター試験成績概要